



Title	Open Ethnography : 協働的エスノグラフィとデータ共有のためのプラットフォーム
Author(s)	森田, 敦郎; 原山, 都和丹; サンプルエール, エミール 他
Citation	
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/101954">https://doi.org/10.18910/101954</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 発表資料へのリンク



## Open Ethnography

森田敦郎

原山都和丹

サンピエール・エミール

モハーチ・ゲルゲイ

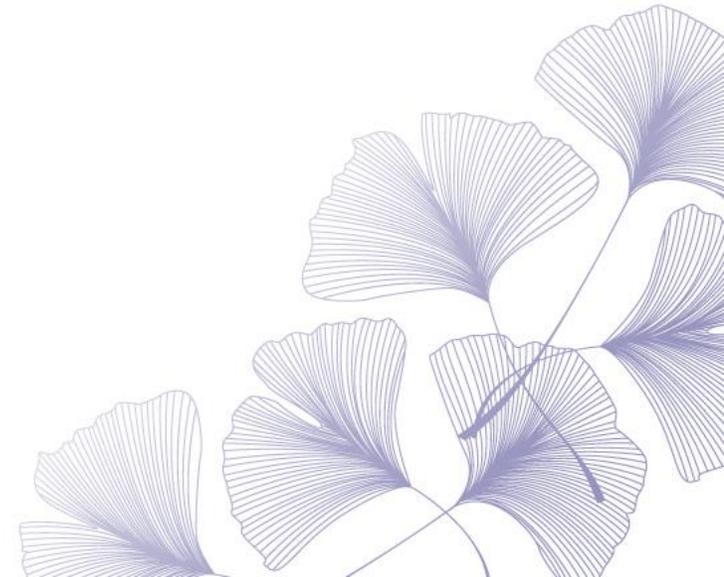
# Open Ethnography

協働的エスノグラフィとデータ共有のためのプラットフォーム

森田敦郎、原山都和丹、サンピエール・エミール  
モハーチ・ゲルゲイ（大阪大学・人間科学研究科）



- はじめに
- 人類学とオープンソース運動
- データ実践の中心性
- Open Ethnography の紹介
- データ実践を介したコラボレーション



- 本発表の目的
  - エスノグラフィをより協働的で開かれたものにする意義をオープンソース運動と人類学の関係に注目して論じる
  - そのためのツールとして Open Ethnography を紹介する
- なぜ、エスノグラフィとオープンソースなのか？
  - 科学の政治とテクノ社会運動と人類学の関わりの中で論じる
- データ実践の中心性
  - データの取り扱いがエスノグラフィが生み出す知識とそれを取り巻く諸関係を変える力を持つことを論じる



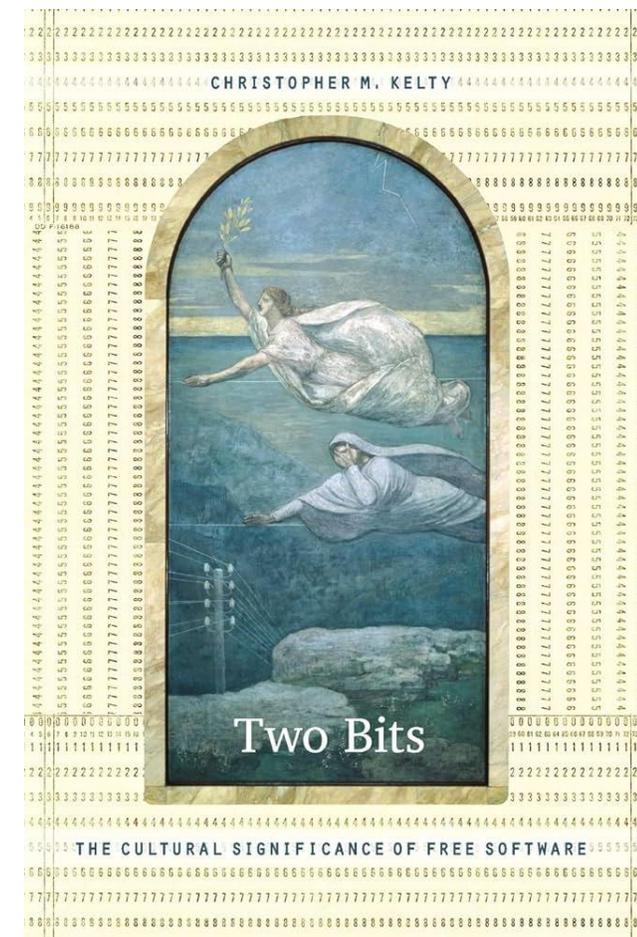
# 人類学とオープンソース運動

- オープンソース運動とは？

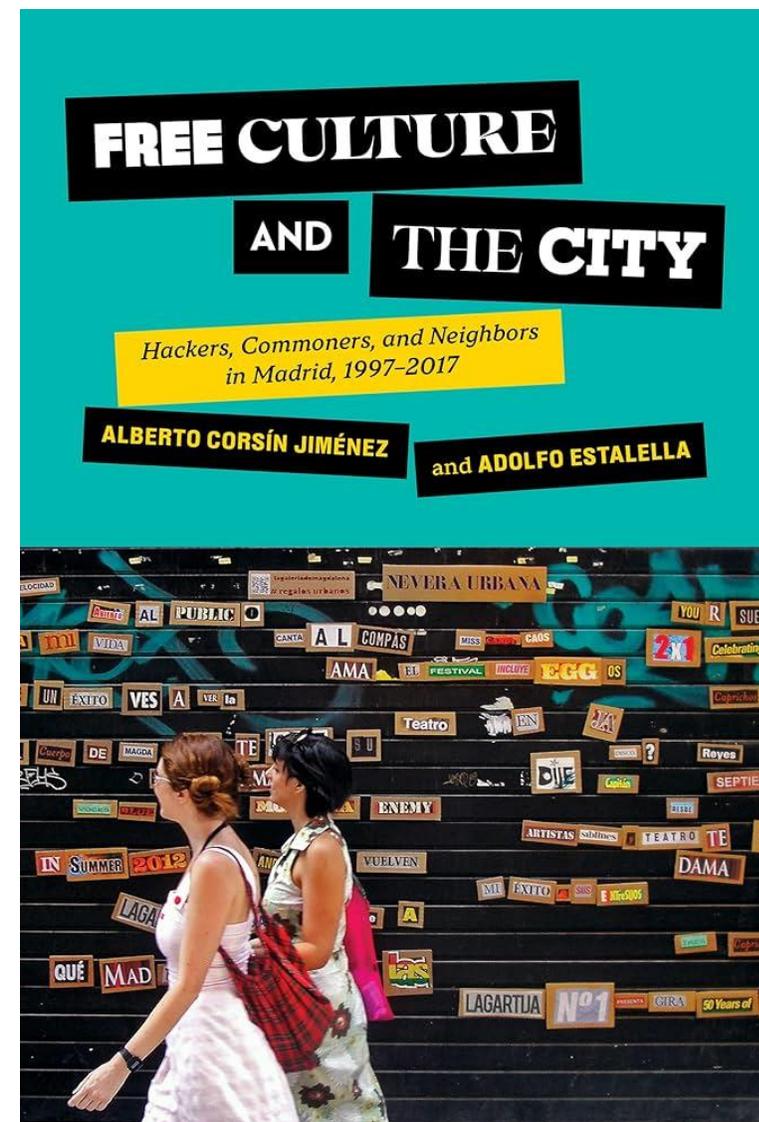
- アマチュアがソフトウェアを共同で開発し、無償で配布・共有する運動「フリーソフトウェア」に端を発する
- インターネットの成立の原動力
- 贈与、互酬性など、人類学のタームを用いて自己を理解する運動でもある

- ソースを開放する

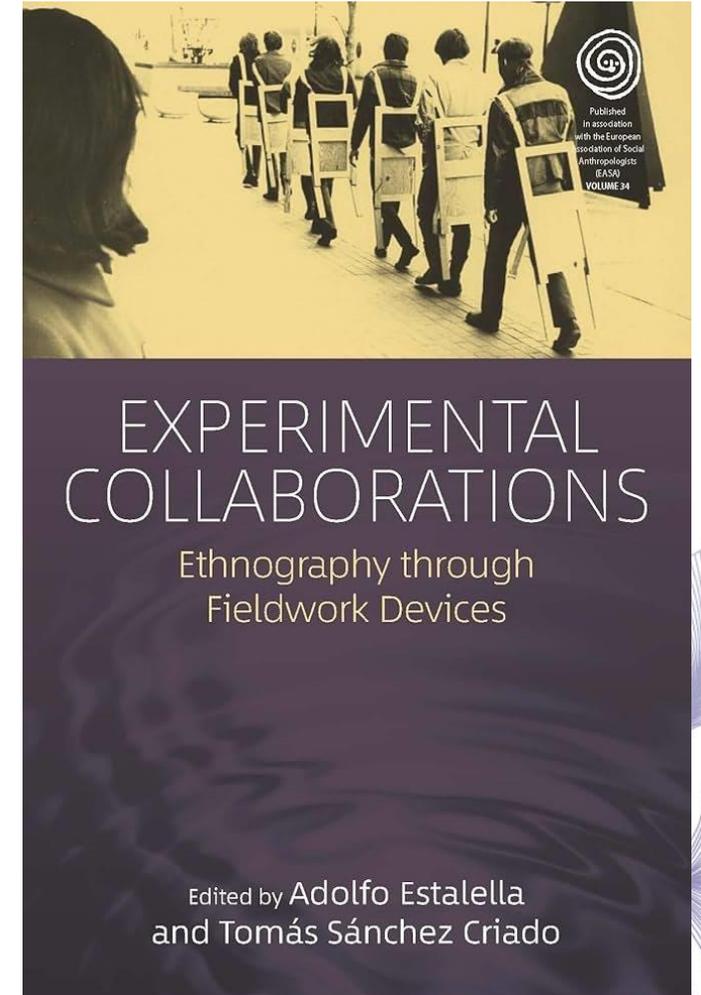
- 単に無料にするのではなく、「そのシステムがどのように作られているのか」をユーザーが見ることができる
- ますます進む科学技術の囲い込みに対抗する運動



- オープンソース・ハードウェア運動の波及
  - オープンソースの原則がソフトウェア以外の対象（ハードウェアなど）にも広がる
  - メイカースペース、Fab Labなど市民が自ら「つくる」運動へ
- オルタナティブを求める社会運動との融合
  - 脱成長、脱消費社会、squatters' movement、「ナリワイ」など（日本での関連の展開は鈴木・伊藤(2025)）
- テクノロジーや知識が「どうやってできているか」をオープンにする



- 当事者との共同探索としての人類学
  - ポスト・ライティングカルチャーの潮流、科学技術の人類学／ANT、デザイン人類学
- コラボレーションの中での重要性
  - データの作成、分析、成果の発表（論文、映像、展示、施設、人工物など）に誰が、どのような形でかかわるのか？
  - データをめぐる具体的な共同作業が、コラボレーションのあり方を大きく左右する
  - データをどう扱うかは、人類学の性質や理論的發展の方向を左右する（Max Gluckman）



## エスノグラフィー研究のサイクル（Spradley 1980）というデータ記録・分析・執筆のプロセスを共同作業として実践・検討する試み

- 従来の個別データ記録に代わり、**デジタルプラットフォーム**を用いる
  - GitHubというコードやファイルを共有・管理するプラットフォーム
  - 人類学者とプログラマーによる共同開発
- 民族誌研究の各段階を記録（保存）・共有できる仕組みのデザイン
- フィールド調査を行う研究者、学生、実践家などがより効率的に研究を進める環境の構築
- 「**チームエスノグラフィー**」の効果について再検討



## 0 プラットフォームの定義

# Open Ethnographyとは？

- フィールドノートの「エントリー」（1日分の記録）を基本単位としたデータベース
- 各エントリーは多種のデータから組み合わされている
  - システム内保存されるテキストデータ
  - 外部ストレージに保存した画像・動画などのデータへのリンク
- 研究データには必要なメタデータも付与され、共同編集・共有が可能となる

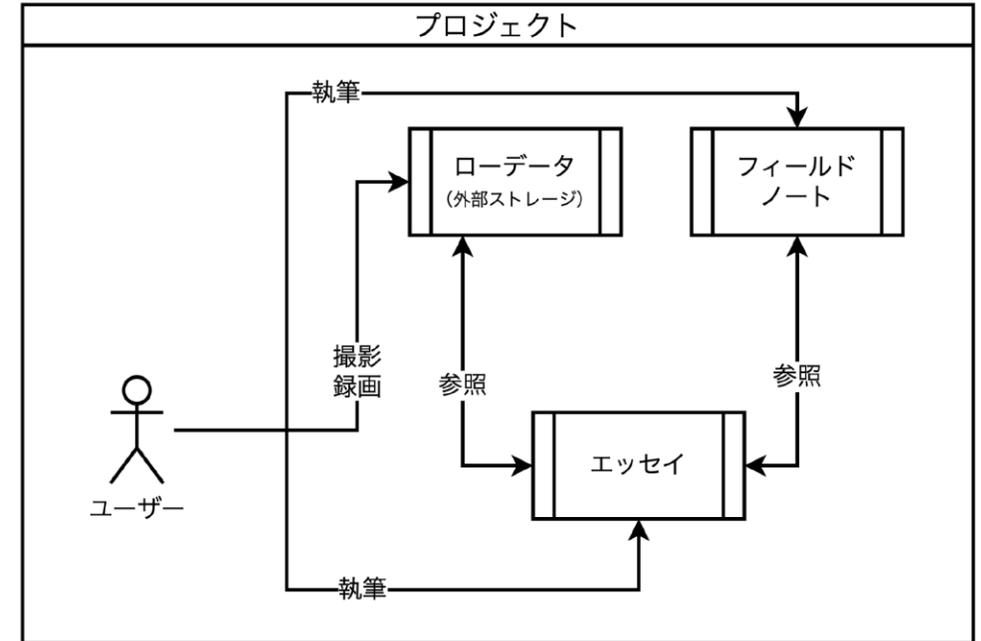
1 データ保存・共有

2 コーディング・分析

3 エコシステム化



- ユーザーはシステムにログインをしてシステムを利用する
- ユーザーは《プロジェクト》に所属し、プロジェクト単位でデータなどを管理する
  - ① 《ローデータ》を登録・登録解除する
  - ② 《フィールドノート》を記録し入力する
  - ③ フィールドノートを《コーディング》する  
(色付きタグやコメントなどを付与)
  - ④ 《エッセイ》を執筆する (変更履歴などあり)
- エッセイを「公開」する (投稿論文など)



- ・クリティカル・メイキングという科研プロジェクトのデータを事例として扱います

The screenshot displays the 'Critical Making' project management interface. On the left, a sidebar contains a dropdown menu for 'Critical Making' and a 'プロジェクト選択' (Project Selection) section. The main content area features a search bar with 'Critical Making' entered, a 'プロジェクト' (Project) header, and a list of projects. A table lists the following projects:

プロジェクト名	説明
<a href="#">Green Woodwork</a>	設定
<a href="#">DIY Energy Anthropology</a>	設定
<a href="#">Urban Ecologies Observatory</a>	設定
<a href="#">Data Ecosystem</a>	設定

At the bottom of the page, there is a footer with the text 'Open Ethnography' and several navigation links: '料金プラン', '利用規約', 'プライバシーポリシー', '特定商取引法に基づく表記', and 'お問い合わせ'. A language dropdown menu is set to '日本語'.



・それぞれの参加者の記録をアーカイブ・共有します

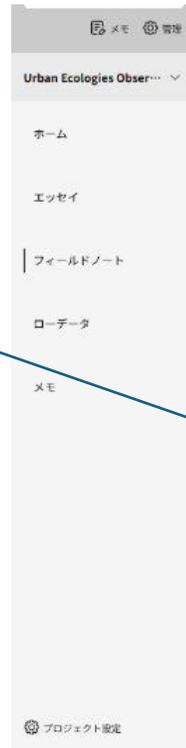
## フィールドノート

フィールドノートを書く

タイトル	記録者	記録日	
<a href="#">20250419 Energy Walk</a>	サンビエール・...		編集
<a href="#">20250419 エネルギーウォーク</a>	森田敦郎		編集
<a href="#">20250215 BridgeStudio断熱DIY</a>	森田敦郎	2025/02/15	編集
<a href="#">20250201 温熱センサー設置のための Bridge Studio 下見</a>	森田敦郎	2025/02/01	編集
<a href="#">20240910_実測</a>	神崎隼人		編集
<a href="#">20240910実測</a>	原山	2024/09/10	編集
<a href="#">20240910 Bridge Studio 実測</a>	森田敦郎	2024/09/10	編集
<a href="#">20240910実測</a>	サンビエール...	2024/09/10	編集
<a href="#">20240910実測</a>	韓智仁	2024/09/10	編集
<a href="#">20240413床はり@Bridge Studio</a>	韓智仁		編集

全12件中1~10件を表示  
1/2ページ

次へ



## フィールドノート

フィールドノート一覧

編集する

Wordファイルをエクスポート

作成: TOWANI HARAYAMA 2024/09/11  
記録: 原山 2024/09/10

## 20240910実測

(事前説明のメモ)

実測して起こす図面は3つあり、三面図と呼ばれる。

- ・平面図 (実測の時には一番大事な)
- ・立面図 (外側から見たトウショウ図)  
トウショウ: スクリーンに当てたような図の概念。水平方向に切断して、真下の向き。
- ・断面図: 垂直方向に切断してどちらか方向に見る。

今日は、平面図と、立面図に似た「展開図」をかく。展開図: 室内から見た時の壁のトウショウ図。

図面をかく時には、構造部材がキーとなるようだ。とりわけ柱が重要。今回のbridgestudioの家屋をざっと見た感じ、室内の柱は製材されているが、割がした天井裏に見える部分は化粧材じゃなく丸太のまま使われている。

平面図を書く際には、柱を基点にプロットしていく。そこから、柱と柱の間に何があるのか、つまりあいているのか、壁なのか、戸なのかを書き込んでいく。

寸法には基本的にはルールがある。柱の間の間隔や、棟の溝のピッチまで大体決まっている。1尺=303mm、6尺=1間=1820mm、柱は1寸(30mm) くらいを基準に製材されている。3寸5分~4寸くらいが一般的なサイズだ。ただし、今回のように古い家屋を測定する際には色々注意が必要。①昭和初期ごろまでは京間や江戸間など地域性のある寸法体系があったこと、②木が痩せていくこと、③製材技術精度のばらつき など。

実測の際には、「ウチウチ」「ソトソト」「ハシハシ」「シンシン」「ミツケ」など、どこからどこまでを測る

## ローデータの間覧・編集

プロジェクト

DIY Energy Anthropology

タイトル

DIYエネルギー人類学アルバム20221213-20230726

URL

https://photos.app.goo.gl/gyFqF56ABkA8rBmw7

メモ

thumbnail:



保存する

登録解除する

プロジェクト

DIY Energy Anthropology

タイトル

DIYソーラー発電ワークショップ

URL

https://youtu.be/zNRm7Pr75UQ

メモ

2023/01/25 山見

embed:



保存する



・協働ワークショップ  
途中でフィールドノートとローデータを共有し、編集してジーン・Newsletterとして出版します

・今までのNewsletterは大阪大学学術情報庫OUKAで公開されています



Urban Ecology Observatory NEWSLETTER 01

2024.SEP.11

## 都市エコロジー観測所 にゆうすれたあ

Bridge Studio 実測

発行所：都市エコロジー観測所  
協力：科学研究費補助金プロジェクト「クリティカル・メ  
イキング」、文部科学省「AI等の活用を推進する研究ア  
タエコシステム構築事業」、大阪大学 Ethnography Lab.  
発行日：2024年9月11日

旧岡本医院Bridge Studioの建物（昭和9年建設）は道路沿いには診療所、奥には住居がある。診療所部分の外観はスクラッチタイル、軒下と1階と2階の間部にはテラコッタ半円筒型の瓦とコンクリートかき落とし仕上げの軒蛇腹で構成され、住居部分の外観は数寄屋造であり、洋と和が混在しているといえる。

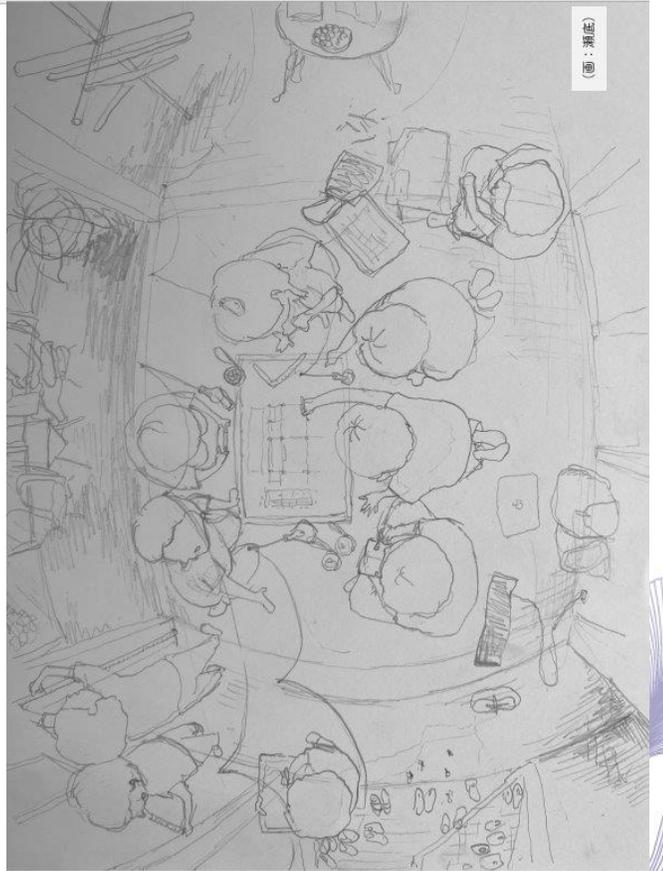
民家の実測は主に建築史の文化財保存や伝統的建造物の調査で行われ、実測スケッチの方法には型があるようだが、そうした型をあまり知らないため、WindowScapeシリーズでやってきた実測の方法や、建築設計業務でおこなってきた改修案件の実測の経験をもとに実測を行なった。具体的には方眼紙に柱（構造材）のプロット、柱間の内寸法、柱寸法より、平面図の骨格をスケッチした。柱間は芯芯で1820mm（一間）より大きく、おそらく京間のモジュールが用いられていると推測される。昭和初期の段階ではまだ木造が工業化されていないためである。柱間装置（換、障子、戸、土壁、欄間など）の情報、平面図から展開図の柱位置を描き起こし、高さ方向の敷

### 都市エコロジー観測所って？

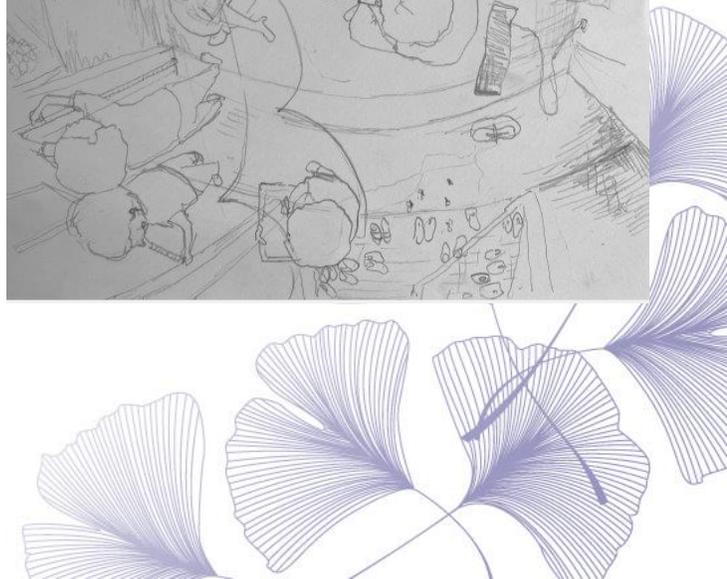
▷都市エコロジー観測所は、市民が主体となり都市環境を観測・可視化するDIY型の観測所です。

▷都市は私たちにとって身近な環境ですが、私たちは都市での暮らしと環境や気候の関係をほとんど知りません。しかし、都市での生活は大きなエネルギー消費、廃棄物などを通して環境に大きな負荷をかけています。また、都市内の植生（緑）や河川は周囲の気温を下げたり、雨水を吸収するなど、アスファルトに覆われた都市の適度な環境を和らげる働きをしています。

▷都市エコロジー観測所は、Bridge Studioの傍を流れる白川流域のまともに注目して、都市の中での水の流れ、植生、太陽光、気候の相互関係を可視化することを目指しています。同時に、都市を都市たらしめている様々なインフラストラクチャー（電力系統、物流システム、上下水道など）の働きとその環境負荷を明らかにしていきます。



(画：漸底)



・コメント、検索、タグづけ機能の追加で協働分析のたたき台と執筆ツールとしても利用しやすくなる見通しです



## エッセイ

く エッセイ一覧

編集する

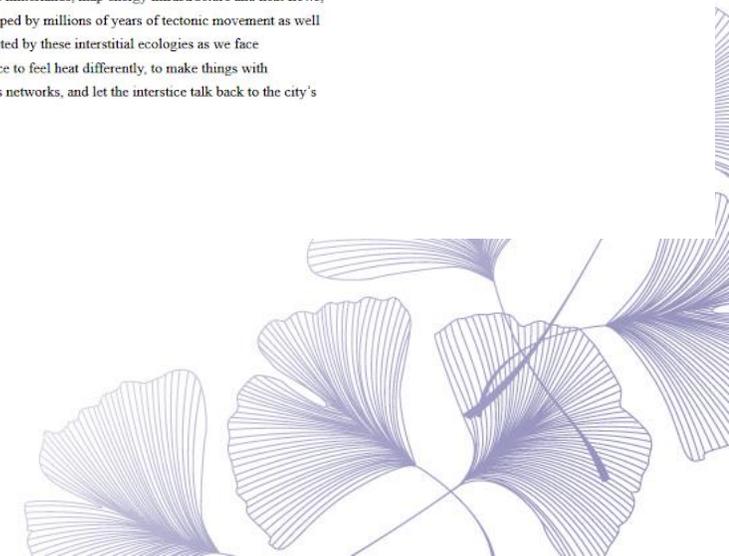
Urban Ecologies Obs...

作成者 サンビエール エミール 2025/06/04

変更履歴を見る

## Urban Critical Zones Abstract

Kyoto is its depopulated hinterlands, its river ecology re-shaped by canals, its reforested mountains made possible by replacing firewood with fossil fuel infrastructure, and its abandoned houses. These are interstitial places (Brighenti, 2016) as well as critical zones: by-products of the city's modern development, but also underdetermined ecologies where we can experiment with ways of seeing and being affected differently. We draw on Geddes' urban observatory and Guattari's (1989) three ecologies, focusing on mapping and grounded, sensory experiences across urban ecologies (Cosgrove, 1999: 22). As part of our activities at the Observatory for Urban Ecologies, based in a former clinic in Kyoto, we have conducted experimental workshops to renovate the space using material from the hinterlands, map energy infrastructure and heat flows, and visit local mountains to learn about how the ecology has been shaped by millions of years of tectonic movement as well as centuries of construction and fuel use. By letting ourselves be affected by these interstitial ecologies as we face increasingly more extreme climate outcomes, the observatory is a place to feel heat differently, to make things with materials and methods that do not depend entirely on modern logistics networks, and let the interstice talk back to the city's endless hunt for growth and efficiency.



ご清聴ありがとうございました

Open Ethnographyをご使用になりたい方は下記のメールアドレスまでご連絡ください

[st.pierre.emile.hus@osaka-u.ac.jp](mailto:st.pierre.emile.hus@osaka-u.ac.jp)



# Open Ethnography

<https://openethnography.jp/>



- 本研究は以下の助成を受けています
- 科学研究費補助金・挑戦的研究（開拓）「クリティカル・メイキング」
- AI等の活用を促進する研究データエコシステム構築事業
- 大阪大学人間科学研究科ヒューマンサイエンスプロジェクト

